

作兵衛は事変后姿をかくし唐津に来て、天野源石工門と名のり、寺沢志摩守に仕え、唐津で死にました。

唐津神社

唐津市城内にあり、神功皇后征韓に際し、海上に皇軍を導き給いし、渡海三神の神徳著るしきを感じ、凱旋の後、鏡を捧げられ祀られた由です。

孝謙天皇の御守殿を修築し唐津明神の神号を賜わりました。唐津の氏神で、秋の大祭が、唐津くんちであります。

聖持院

唐津市東寺町(十人町)にあり、眞言宗の古刹ですが詳細不明で、只後庭に幹の廻り一尺にも及ぶ、高さ三間位の「フ」が有り、豊太閤朝鮮陣の旗植えられたと伝えられ、花時の美観はスバラしく、余り一般には知られていません。尚名護屋城の豊大隠の居間にあつたと伝えられる、左甚五郎作の欄面(葡萄模様)と名護屋城の鬼瓦と称するものがあります。

『日限地藏菩薩』は信者多く、日々参拝者が絶えません。

唐津古窯

東唐津より南西三折、大門口より徒歩十五分、唐津駅より南方徒歩五分余、中里大郎右工門随房の一隅にある。享保年間(今より約二百五十年前)坊主町御茶屋窯(現唐津西高校運動場より移転、四代中里大郎右工門、五代中里豊平次等により築窯され、代々唐津藩の御用窯として使用された。この窯の作品は、土井唐津、献上唐津であります。尚現在日本に残っている宮附窯の中最も古いものであります。

観音の石佛(相知町和山)

唐津線相知駅の西方約十町にあり、岩窟の岩壁に十一面観音を初めとし大小二十数体の仏像を刻んであり、空海の作と伝えられています。

見婦の滝(相知町伊岐佐)

和山山から凡そ一里、伊岐佐溪谷を沿うて登れば、見婦の滝につきます。水量豊かな女滝男滝に分れた直下十丈の瀑布で、一日のハイキングに好適です。

飯洞壺下窯跡

東松浦郡北波多村鮎婦で、国鉄津岳駅下車後、左に行けば穂田八幡宮の前に出る。右に平山左に岸岳を望み、尚十二三丁進めば二三戸の農家があり、右の方に桐木盤取しの山道を、溪流に沿うて十丁余登れば、鮎婦官林道の分岐点に着く、官林道を右に五丁余行けば、溪流の合した御茶の水があり、その左方斜面が窯跡であります。

斜面の中腹に朝鮮系割竹式登窯一基が残って居ります。

此の窯は、我が国登窯の始祖で、今より五六百年前のものであり、日本最古の窯であります。彫唐津茶盆、タタキの壺、絵唐津のタヒ吞等、古面やかましく古われている岸岳古唐津の優品が多くこの窯で作られている。御茶水より右方四十間上れば、飯洞壺上窯がある。現今飯洞壺上下両窯以外に帆柱、皿屋の面窯があり、筑肥線佐里駅附近に道細屋谷、平松の面窯がある。何れも岸岳古唐津であります。

鏡神社

鏡山の南麓にあり、神功皇后と、藤原広嗣を祭つた、松浦地方第一の神社で、昔は境内八